

九州・アジア/中国ビジネス研究会

第83回研究会開催案内

日時： 平成25年12月20日(金) 18:30 - 20:30

場所： エルガーラ・オフィス棟 6階601-2号室 久留米大学福岡サテライト教室

福岡・中央区天神1-4-2 大丸エルガーラ東館 TEL : 092-737-3111

(エルガーラ・オフィス棟は天神・大丸エルガーラ東館と国体道路沿いで隣接するビルです)

講師： Lingua Franca Holdings Pte. Ltd.(在シンガポール)

代表 藤山 英昭(ふじやま ひであき) 氏

略歴：1997年3月 九州大学経済学部卒業。同年(株) 日本興業銀行(現みずほ銀行) 入行。2001年国連アジア太平洋経済社会委員会にてインターン(ESCAP: Economic Social Commission for Asia and Pacific)。2001年 国際協力銀行(JBIC) 入行、スリランカ、バングラデシュ、ベトナム電力セクター向けプロジェクト融資を担当。2004年日本アジア投資株式会社に入社し、2005年、マレーシア最大手商業銀行であるMaybankグループとの共同ファンド設立の為、現地駐在。2008年 マレーシア駐在員事務所設立、マレーシア駐在員事務所所長就任、翌年シンガポールへ異動。2011年東南アジア統括会社CEO就任、東南アジア全域での投資活動を実施。2013年自ら起業し、日本企業の東南アジア進出支援を行うLingua Franca Holdingsグループ会社を設立、現在に至る。

テーマ： 東南アジアでのM&Aの実情と東南アジア進出案件の事例

概要：近年、日本企業の東南アジア地域への進出意欲が高まっているが、一口に東南アジアと言ってもその法体系、文化的背景は多様であり、先ずはその多様性を理解する必要がある。進出の形態は独資、合弁、M&Aが検討対象となり、各々について詳細を検討する必要がある。またとりわけ外資規制は東南アジアの国々に広範に導入されており、これを理解する必要がある。さらに、合弁或いはM&Aを検討する場合、パートナー候補の選定と交渉、その前提となる対象会社の把握については時間とコストをかけて丁寧に行う必要がある。東南アジア企業のM&Aについては、現地特有の問題もあり、これも事前に認識しておくことがトラブルを回避する為に有効である。日本企業の具体的な進出事例については、特に近年、日本企業が東南アジア地域を有望な市場とみる傾向が顕著であり、飲食とサービス産業の事例について複数取り上げる。今回、東南アジア進出の基礎編として現地側の視点でお話し願う。

会費：参加ご希望の方は以下に申込み、登録の上、当日会場入り口にて参加費1000円をお支払いください。

申込み先：(株) アジアソリューション・中山芳美 宛

電話：092-741-9338 E-mail：yoshimi@asol.ne.jp

九州・アジア/中国ビジネス研究会

主催：一般社団法人九州・アジアビジネス連携協議会

共催：近畿大学産業理工学部・アジアビジネス研究会